

# 教育キャンプにおける集団特性が 自己概念の変化に及ぼす影響

山口女子大学  
真竹 昭宏

筑波大学大学院  
千足 耕一

The Influences of the Group Characteristics  
on the Change of Student's Self-concept in an Educational Camp

Akihiro MATAKE  
Yamaguchi Women's University  
Kouichi CHIASHI  
Tsukuba University

---

運動・健康教育研究 第1巻 第3号 別刷  
日本幼少児健康教育学会西日本学会  
1992年1月

---

The Journal of Movement and Health Education, Vol.1 No.3, 1992

原 著

## 教育キャンプにおける集団特性が 自己概念の変化に及ぼす影響

The Influence of Educational Camp on The Self-Concept  
by The Difference of Group Characteristic.

真竹 昭宏\* ・ 千足 耕一\*\*

Akihiro MATAKE      Kouichi CHIASHI

(1991年11月30日受理)

概 要： 本研究では、教育キャンプにおける自己概念の変化を知るために、自己概念調査を集団構成およびプログラム特性の異なる2集団を対象に実施し、両特性から検討を試みた。

キャンプ経験がキャンパーの自己概念に好ましい影響を与えることは、多くの研究で報告されている。しかしながら今回の調査では、好ましくない影響もみられた。この結果を引き起こした要因として、異性集団の男女構成比が大きく関与していることが理解された。性差による性役割の2分化が強ク形成された、教育年限の高い大学生の異性集団では、既存の社会規範への同調と異なる環境を与えられた場合、自己概念を形成する様々な因子に対して好ましくない結果を生じさせる傾向がみられた。

検索語： キャンプ活動 自己概念 性役割 性差

### 緒 言

学校教育の一環として実施される教育キャンプは、その運営および教育目的等の効果ある達成のため、班単位の小グループを基本単位として構成し、それぞれの個々に役割を分

担させ展開される組織的キャンプの形態がとられている。組織的教育キャンプは、日常生活の場とは異なる生活環境、社会環境の中において集団生活の経験を通して自らの役割に進んで責任をもつことにより自己の発見と洗練を行う活動である。

---

\*山口女子大学      \*\*筑波大学大学院

個人が自分自身をどのように位置づけ、どのように評価しているかという自己概念の内容は、行動理解の正確さおよび予測の精度を高めると考えられていると同時に、教育キャンプ活動の教育的効果を測る一つの指標としても用いられている。川村らは、組織キャンプの運営、展開に重要な役割をもつキャンパーと、そのような役割をもたないキャンパーとのキャンプ参加前後における自己概念調査を行い、強靱性を示す因子の変化に有意差がみられ、全体的にも自己概念がより強い方向に変化した特徴を報告している<sup>6)</sup>。他の研究においても同様の指摘がなされ、自己を見つめ直すプログラムの積極的な導入がいくつか提言されている<sup>5) 8) 11) 12)</sup>。これらは主にキャンププログラムの観点から自己概念の変化について検討されたものが多く、組織キャンプを形成する集団特性が、自己概念の変化にどのような影響を及ぼすか否かについては明らかにされていない。

自己の発見、自己能力の向上を目的とした場合、個人が積極的に活動に参加し自ら満足感を得ることが必要である。このような傾向を達成動機としてとらえた場合、異性集団によるキャンプでは必ず性差から生じる達成動機の充足方法の違いがみられるようになる。

本研究では、組織キャンプを形成する集団特性とキャンププログラムの主旨・目的の違いが、どのように自己概念の変化に影響を及ぼすかについて検討することとした。

## 対象と方法

### 1. 調査対象

調査対象は、3泊4日で行われた大学キャンプ実習参加者、Group-A 50名、Group-B 49

名、計99名の大学1年生である。

表-1 調査対象

対象	男子	女子	計
Group-A	25名	25名	50名
Group-B	17名	32名	49名

両実習とも6班からなる小集団に分け、それぞれにキャンプ経験を有する学生カウンセラーをつけるとともに、野外教育活動を専門とする教員5名が指導にあたった。実習地はいずれも宮城県に所在する国立南蔵王青少年野営場を使用した。

### 2. プログラム特性

#### ・Group-A

キャンププログラムの主旨・目的は以下の2点であった。

- 1) グループ活動のなかで自分がどのような働き、役割をしたらいいのかを学ぶ。
- 2) 協調性を身につける。

これらの目的を達成するため、実際の活動プログラムは可能な限り集団全員が協力し活動しなければならないプログラムが構成された。

#### ・Group-B

キャンププログラムの主旨・目的は以下の3点であった。

- 1) 美しく、雄大な自然を体験する。
- 2) 共通体験を分かちあう友と出会う。
- 3) 新しい人間関係の中で、新しい自己を発見する。

これらの目的を達成するため、活動プログラムは縦走登山、野営キャンプ（ビバーク活

動)等、自然環境を最大限に活用した冒険プログラムの活動を主体として構成された。

### 3. 調査内容

自己概念の変化を知るために、事前調査としてキャンプ開講式直後、また事後調査としてキャンプ閉講式直後の計2回、長島等の作成した自己概念スケール(Self-Differential Form A)を実施した<sup>9)10)</sup>。

調査項目は47項目から成り立ち、それぞれの項目は、傾向すなわち向きを示すI群「向性因子」、質問項目の表現に情動の存在がうかがえるII群「情緒安定性因子」、粘り強く意欲的な側面をもつIII群「強0性因子」、道徳性・社会的成熟から成り立つIV群「誠実性因子」、感受性に関係するV群「過敏性因子」、理性と知恵の性質をもつVI群「理性性因子」等の6因子から構成されている。

統計的な処理をするために、調査項目の左側尺度より仮の得点として1~7点の得点を与え、それぞれの項目の平均値、標準偏差を算出し、平均値の差についてt検定を行った。また、事後調査とあわせて感想文の提出を求め、自己概念調査分析の補足資料とした。

### 結果および考察

#### 1. Group-Aの自己概念の変化について

##### 1-1. 集団全体の変化

Group-Aの自己概念調査において、事前と事後の値に有意差がみられた項目は、2)短気な→気長な、7)怠惰な→勤勉な、15)ふまじめな→まじめな、19)強情な→素直な、25)無能な→有能な、35)冷淡な→情熱的な、の6項目であった。第II因子の項目に影響を及ぼしたと考えられる要因として、ナイトゲームやオリ

表-2 調査用紙<sup>6)</sup>  
(Self-Differential Form A)

項目	とてし か なり や や や や か なり とてし						
	とてし	か なり	や	や	や	か なり	とてし
1 純感な							敏感な
2 短気な							気長な
3 強い							弱い
4 陽気な							陰気な
5 物覚えのよい							忘れっぽい
6 不正確な							正確な
7 勤勉な							怠惰な
8 感情的な							理性的な
9 派手な							地味な
10 厳しい							やさしい
11 感性的な							理知的な
12 短気な							強気な
13 孤独な							社交的な
14 無口な							おしゃべりな
15 まじめな							ふまじめな
16 かない							やわらかい
17 にぎやかな							静かな
18 角のある							丸い
19 素直な							強情な
20 忍耐な							勇敢な
21 頼りない							頼もしい
22 不誠実な							誠実な
23 親切な							いじわるな
24 無責任な							責任感のある
25 無能な							有能な
26 消極的な							積極的な
27 信じ易い							懐疑的な
28 外向的な							内向的な
29 ひかえめな							でしゃばりな
30 不安定な							安定な
31 小心な							大胆な
32 おだやかな							激しい
33 個性のない							個性的な
34 大人っぽい							子供っぽい
35 冷静な							情熱的な
36 内面的な							外面的な
37 不潔な							清潔な
38 暖かい							冷たい
39 慎重な							軽率な
40 きちんとした							だらしない
41 不注意な							注意深い
42 開放的な							閉鎖的な
43 元気な							病弱な
44 無気力な							意欲的な
45 たくましい							弱々しい
46 自分勝手な							思いやりのある
47 気持良い							気持悪い

表-3 項目別検定結果 (Group-A男子)

	Pre ①		Post ②		①-② t 値
	MEAN	S. D.	MEAN	S. D.	
1	4.27	1.71	4.16	1.76	0.51
2	3.5	1.64	4.12	1.91	-2.46*
3	3.87	1.80	3.70	1.82	0.62
4	2.70	1.62	2.91	1.61	-1.04
5	4.29	1.75	3.95	1.75	1.44
6	3.95	1.60	3.83	1.34	0.40
7	4.85	1.45	3.95	1.48	3.59**
8	2.54	1.31	3.39	1.71	-2.83**
9	4.04	1.87	4.22	1.70	-0.66
10	4.91	1.47	5.37	1.55	-1.49
11	3.41	1.58	2.87	1.65	1.46
12	4.08	1.69	3.79	1.84	1.07
13	4.91	1.47	4.79	2.12	0.30
14	5.22	1.66	4.83	1.97	1.09
15	4.37	1.40	3.83	1.71	1.83
16	4.37	1.63	4.87	1.80	-1.33
17	2.83	1.68	3.16	1.76	-9.15
18	4.5	1.44	4.97	1.76	-1.49
19	3.45	1.50	2.91	1.47	1.76
20	4.20	1.53	4.10	1.87	0.27
21	4.16	1.76	4.35	1.95	-0.50
22	4.12	1.51	4.58	1.53	-1.41
23	2.95	1.39	2.95	1.68	0
24	4.25	1.45	4.33	1.85	-0.26
25	3.66	1.23	4.43	1.26	-2.22*
26	4.58	1.47	4.87	1.65	-1.15
27	2.83	1.55	2.81	1.40	0.15
28	3.16	1.34	3.41	1.88	-0.63
29	4.12	1.32	3.66	1.52	1.79
30	3.37	1.43	3.20	1.71	0.45
31	3.60	1.35	3.79	1.84	-0.56
32	3.37	1.37	3.16	1.27	0.96
33	5.33	1.43	5.29	1.57	0.18
34	3.79	1.31	4.20	1.76	-1.12
35	4.66	1.55	5.27	1.42	-1.76
36	4.45	1.35	3.83	1.55	2.04
37	4.45	1.17	4.62	1.31	-0.64
38	3.04	1.45	2.58	1.24	1.66
39	3.75	1.53	3.33	1.63	1.38
40	4.08	1.38	3.83	1.83	0.74
41	3.75	1.32	4.06	1.78	-0.97
42	3.04	1.36	3.10	1.80	-0.16
43	2.45	1.25	2.41	1.58	0.17
44	4.62	1.24	5.00	1.76	-1.10
45	3.29	1.12	3.37	1.37	-0.34
46	4.54	1.61	4.58	1.71	-0.11
47	2.87	1.26	2.58	1.31	1.19

\*P&lt;0.05 \*\*P&lt;0.01 \*\*\*P&lt;0.001

表-4 項目別検定結果 (Group-A女子)

	Pre ①		Post ②		①-② t 値
	MEAN	S. D.	MEAN	S. D.	
1	3.66	1.27	3.79	1.47	0.47
2	4.12	1.59	4.41	1.41	-1.32
3	3.70	1.42	3.54	1.10	0.60
4	2.66	1.20	2.75	0.94	-0.46
5	4.33	1.27	4.29	1.12	0.21
6	4.12	1.19	4.25	1.11	-0.68
7	4.29	0.80	3.75	1.03	2.12*
8	3.58	1.28	3.33	1.30	1.66
9	4.41	0.77	4.29	0.75	1.14
10	4.79	0.97	4.62	1.05	0.84
11	3.20	0.93	3.25	1.07	-0.20
12	3.62	1.17	3.54	1.14	0.40
13	4.87	1.32	4.79	0.97	0.40
14	5.08	1.28	5.08	1.38	0
15	3.33	0.86	3.08	1.01	1.06
16	4	0.78	4.08	1.1	-0.41
17	2.87	1.32	3	1.10	-0.68
18	4.91	1.1	4.58	1.17	1.55
19	3.37	1.17	2.95	0.99	1.85
20	3.58	1.61	3.37	1.37	0.86
21	4.31	1.50	4.04	1.39	1.57
22	4.75	0.79	4.79	1.17	-0.20
23	3.08	0.97	3.08	0.83	0
24	4.83	1.16	4.95	0.95	-0.56
25	3.91	0.88	4.08	0.88	-1.07
26	4.41	1.31	4.70	1.08	-1.43
27	2.83	1.11	3.12	1.11	-1
28	3.16	1.20	3.20	0.97	-0.23
29	4.12	1.09	4.25	1.07	0.37
30	3.37	1.45	4	1.25	0.67
31	3.60	1.41	3.95	1.23	-0.27
32	3.37	1.01	3.08	0.97	0
33	5.33	1.31	4.37	1.40	0.41
34	3.79	0.79	4.62	1.05	-0.84
35	4.66	1.01	4.83	1.12	-1.09
36	4.45	0.9	4.62	1.13	-2.39*
37	4.45	0.92	5.08	0.92	1.57
38	3.04	1.21	3.25	1.11	-1.05
39	3.75	1.25	3.37	1.20	0.53
40	4.08	1.06	3.5	0.97	0
41	3.75	1.12	4.04	1.45	-0.31
42	3.04	1.07	3.12	0.79	0
43	2.45	1.21	2.45	1.21	0
44	4.83	1.30	5.16	0.96	-1.52
45	3.29	1.16	3.04	1.08	1.23
46	4.79	0.93	4.5	0.83	1.43
47	3.33	1.04	3.12	0.99	1.15

\*P&lt;0.05 \*\*P&lt;0.01 \*\*\*P&lt;0.001

エンターリング等の集団活動により集団内のコミュニケーションが活発に行われ、協調性、集団との一体感が養われた結果ではないかと推察される。第Ⅲ因子の項目に関しては、食事の準備を始めとし、全ての活動において自ら解決せねばならないという生活を体験したことにより、キャンパー同士の連帯感、グループ意識の向上がなされ、その意識がキャンプに対する取り組み方を意欲的な方向に変化させたものと考えられる。第Ⅳ因子に関しては、グループ生活の中で自分がおかれている状況や役割等を認識し、自らの積極性が養われたものと考えられる。

#### 1-2. 男女差による各項目の変化の相違

男子群から得られた自己概念の変化に有意差がみられた項目は、2)短気な→気長な、7)怠惰な→勤勉な、8)感情的な→理性的な、25)無能な→有能な、の4項目であった。(表-3)

女子群から得られた自己概念の変化に有意差がみられた項目は、7)怠惰な→勤勉な、36)内面的な→外面的な、の2項目であった。

この結果から、男子群の自己概念の変化に対して種々の活動が幅広く影響を及ぼしたのに対し、女子群では、キャンプ生活を通じた相互のコミュニケーションを中心に、信頼感、協調性、集団との一体感等に特に影響が与えられたといえる。(表-4)

#### 1-3. 因子ごとの変化について

有意な差がみられた因子は、第Ⅱ因子、第Ⅲ因子、第Ⅳ因子の3因子であった。いずれの因子も一般的に好的方向への変化がみられた。特に第Ⅳ因子では大きな変化がみられ、集団活動を中心にしたプログラムは、協調性、道徳性の学習に対して有効な手段であること

が理解できる。

表-5 因子別検定結果 (Group-A全体)

	Pre ①		Post ②		①-②
	MEAN	S.D.	MEAN	S.D.	t 値
FACT-I	4.72	1.41	4.59	1.51	2.18
FACT-II	4.64	1.34	4.82	1.37	-2.86*
FACT-III	4.28	1.44	4.42	1.51	-2.45*
FACT-IV	4.14	1.37	4.34	1.44	-3.58***
FACT-V	4.59	1.58	4.54	1.65	0.55
FACT-VI	3.85	1.42	3.94	1.60	-1.05

\*P<0.05 \*\*P<0.01 \*\*\*P<0.001

#### 1-4. 男女差による因子ごとの変化の相違

男子群の自己概念に変化のみられた因子は、第Ⅰ因子、第Ⅱ因子、第Ⅲ因子、第Ⅳ因子、の4因子であった。第Ⅱ因子、第Ⅲ因子、第Ⅳ因子では、いずれも好的方向への変化がみられた。しかしながら、第Ⅰ因子においては一般的に望ましくないと考えられる方向への変化がみられた。これは協調性や集団との一体感を得るために、自らの意志のみによる勝手な行動・言動を抑制した結果から生じたものと推察される。

表-6 因子別検定結果 (Group-A 男子)

	Pre ①		Post ②		①-②
	MEAN	S.D.	MEAN	S.D.	t 値
FACT-I	4.77	1.57	4.47	1.82	2.75**
FACT-II	4.61	1.52	4.97	1.60	-3.61***
FACT-III	4.29	1.53	4.49	1.73	-2.18*
FACT-IV	3.95	1.51	4.24	1.63	-3.30**
FACT-V	4.58	1.69	4.53	1.84	0.37
FACT-VI	3.81	1.62	4	1.83	-1.20

\*P<0.05 \*\*P<0.01 \*\*\*P<0.001

女子群の自己概念の変化に有意な差がみられた因子は一因子も得られなかった。

Group-A の集団特性の一つである、男女構成比は1:1である。1-2、および前述の結果から、この集団特性は集団の役割分担・行動に対して何らかの影響を及ぼしたことが推察される。現代社会においては、女性は高度な知的能力やリーダーシップを必要とする領域においてよりも、むしろ社会的スキル、すなわち社会的な対人行動において、相手のとる行動の変化にうまく即応するといった技能の面で優れていることの方が、より価値のあることと強調されている<sup>4)</sup>。このような意識のもと、自然と女性の中で性役割感が形成され、自らを社会適応する側、フォロワーとしての位置づけをなしたものと考えられる。Broverman, I. K. は、性役割の概念は自己概念の中に組み込まれていることを指摘している。この集団特性は女性の心理に対して、集団に適応しようと望むことにより自らの性別を意識し役割を2分化する結果を生じさせているといえよう。

表-7 因子別検定結果 (Group-A 女子)

	Pre ①		Post ②		①-② t 値
	MEAN	S.D.	MEAN	S.D.	
FACT-I	4.68	1.24	4.70	1.10	0.37
FACT-II	4.68	1.13	4.67	1.07	0.18
FACT-III	4.28	1.35	4.35	1.26	-1.15
FACT-IV	4.34	1.18	4.44	1.21	-1.59
FACT-V	4.60	1.47	4.55	1.43	0.42
FACT-VI	3.89	1.19	3.89	1.34	0.00

\*P<0.05 \*\*P<0.01 \*\*\*P<0.001

## 2. Group-Bの自己概念の変化について

### 2-1. 集団全体の変化

自己概念の変化に有意な差がみられた項目は、2)短気な→気長な、8)理性的な→感情的な、16)かたい→やわらかい、20)臆病な→勇敢な、32)おだやかな→険しい、37)清潔な→不潔な、40)きちんとした→だらしない、の7項目であった。

第II因子項目には、Group-A 集団への影響と同様、集団生活の営みの上から相互の信頼感、協調性、集団との一体感等が養われた結果であると考えられる。32)おだやかな→険しいの項目において、このような変化が生じたことについては、一般的とらえ方からは好ましくない方向への変化としてみられるが、冒険的プログラムの影響として考えるならば、むしろこの方向への変化は好ましいと判断すべきと考える。第III因子の項目に影響を及ぼしたと考えられる要因には、キャンプ場外の山中ビバーク、8時間にも及ぶ縦走登山等の厳しい条件下での活動を克服した自己認識の向上が考えられる。その他の傾向として、キャンプ活動中の衛生面での指摘としてとらえられる結果が、37)清潔な→不潔な、40)きちんとした→だらしない、等の項目で得られた。

### 2-2. 男女差による各項目の変化の相違

男子群の自己概念の変化に有意な差がみられた項目は、8)理性的な→感情的な、19)素直な→強情な、20)臆病な→勇敢な、の3項目であった。(表-8)

女子群では、2)短気な→気長な、32)おだやかな→険しい、35)冷淡な→情熱的な、37)清潔な→不潔な、の4項目であった。

男子群では、厳しい条件下でのプログラムを体験し克服した満足感がうかがえる結果が得られている。反面女子群では、入浴ができた

表一8 項目別検定結果 (Group-B男子)

	Pre ①		Post ②		①-② t 値
	MEAN	S. D.	MEAN	S. D.	
1	3.87	1.65	4.12	1.45	-0.49
2	3.75	1.47	4.18	1.64	-1.19
3	4.78	1.49	4.81	1.60	0
4	3.56	0.89	3.12	1.45	1.51
5	4.84	1.20	4.5	1.41	1
6	4.43	1.35	4.06	1.48	0.92
7	3.84	0.92	4	1.21	-0.61
8	3.81	1.16	3.31	1.49	2.23*
9	4.31	1.41	3.93	1.34	1.24
10	4.84	1.15	4.68	0.94	0.52
11	3.18	0.91	3.62	1.40	-1.16
12	4.5	1.19	4.06	1.38	1.03
13	4.12	1.20	4.5	1.21	-0.80
14	4.06	1.37	4.37	1.70	-0.74
15	3.43	0.89	3.68	1.07	-1.07
16	3.90	1.03	4.43	1.45	-1.59
17	4.09	1.42	3.75	1.34	0.74
18	4.59	0.91	4.56	1.15	0.23
19	3.12	0.94	3.81	1.16	-2.82*
20	3.21	1.23	4.06	1.65	-2.44*
21	3.28	1.06	3.5	1.26	-0.76
22	4.62	0.90	4.56	1.20	0.29
23	3.09	0.86	3.31	0.87	-0.71
24	4.65	1.24	4.18	1.51	1.19
25	4.18	1.04	3.87	1.36	1.09
26	3.96	1.07	4.06	1.48	-0.32
27	2.87	1.61	3.06	1.52	-0.36
28	3.78	1.22	3.5	1.54	0.81
29	3.84	1.20	3.81	1.27	0.23
30	3.90	1.36	3.93	1.69	-0.20
31	3.31	1.18	3.43	1.31	-0.17
32	3.29	1.04	3.43	1.15	-0.64
33	4	1.21	4.31	1.25	-0.86
34	4.68	1.13	4.87	1.5	-0.67
35	4.25	1.12	4.37	1.08	-0.41
36	3.68	1.07	4	1.31	-1.57
37	4.90	1.18	4.06	1.80	2.08
38	3.46	0.84	3.5	0.89	-0.19
39	3.84	1.41	3.93	1.65	-0.23
40	3.46	1.5	3.93	1.38	-1.51
41	4.15	1.12	4	1.59	0.37
42	3.09	1.06	3.12	1.14	0
43	3.21	1.16	2.75	1.12	1.73
44	4.56	1.19	4.43	1.31	0.89
45	4.18	1.31	3.62	1.14	1.93
46	3.84	0.81	4.12	1.31	-0.71
47	3.56	0.89	3.37	1.08	0.64

\*P&lt;0.05 \*\*P&lt;0.01 \*\*\*P&lt;0.001

表一9 項目別検定結果 (Group-B女子)

	Pre ①		Post ②		①-② t 値
	MEAN	S. D.	MEAN	S. D.	
1	3.89	1.37	3.78	1.57	0.37
2	3.92	1.35	4.46	1.62	-2.64*
3	4.10	0.99	3.78	1.39	1.10
4	2.64	1.19	2.5	1.17	0.81
5	3.71	1.74	3.46	1.37	1.09
6	4.03	1.04	4.17	1.28	-0.94
7	4.2	1.40	4	1.21	1.02
8	3.14	1.23	2.92	1.35	1.14
9	4.17	1.02	3.96	1.10	1.14
10	4.42	1.06	4.5	1.20	-0.31
11	3.39	1.19	3.10	1.22	1.39
12	3.96	1.10	3.85	1.26	0.44
13	4.85	1.17	5.07	1.24	-0.92
14	5.28	1.30	5.28	1.41	0
15	3.82	1.12	4.03	1.37	-0.90
16	4.10	1.19	4.64	1.31	-1.91
17	3.28	1.35	3.25	1.40	0.12
18	4.69	1.21	4.85	1.00	-0.89
19	3.60	1.28	3.39	1.42	0.67
20	3.67	1.15	4.10	1.34	-1.84
21	3.89	1.44	4	1.15	-0.44
22	4.32	1.12	4.46	0.88	-0.70
23	2.96	0.83	3.07	1.05	-0.55
24	4.28	1.48	4.5	1.55	-1
25	4.05	1.12	3.92	0.97	0.89
26	4.30	1.25	4.5	1	-1.04
27	2.92	1.38	3.10	1.28	-1
28	3.35	1.47	3.28	1.32	0.49
29	4.10	1.25	4.28	1.24	-1
30	4.03	1.10	4.21	1.28	-0.79
31	3.96	1.26	4.39	1.37	-1.53
32	3.21	1.03	3.66	1.03	-2.36*
33	4.39	1.16	4.58	1.46	-1.03
34	4.5	1.31	4.46	1.23	0.32
35	4.35	1.39	4.78	1.34	-2.36*
36	3.98	1.04	4.12	1.34	-0.59
37	5.30	1.18	4.75	1.11	2.74*
38	3.35	1.12	3.42	0.95	-0.40
39	3.78	1.37	3.78	1.16	0
40	3.35	1.22	3.71	1.30	-1.91
41	3.67	1.36	3.85	1.32	-0.72
42	3.17	1.24	3	1.15	1
43	2.46	1.03	2.39	1.1	0.40
44	4.35	1.19	4.55	1.18	-0.92
45	3.32	1.24	3.39	1.22	-0.49
46	4.32	1.15	4.12	1.51	1.04
47	3.5	0.69	3.08	1	1.8

\*P&lt;0.05 \*\*P&lt;0.01 \*\*\*P&lt;0.001



いために起こる自分に対するイメージ等、衛生面に関わる影響が強く感じられた。(表-9)

### 2-3. 因子ごとの変化について

有意な差が見られた因子群は、第I因子、第II因子、第III因子の3因子であった。どの因子も一般的に好ましい方向への変化がみられた。主に縦走登山で自然環境の雄大さに感動し精神感情面が豊かになったこと、また体験克服による自己能力の可能性を再発見する機会を得た結果によるものとする。

表-10 因子別検定結果 (Group-B全体)

	Pre ①		Post ②		①-②
	MEAN	S.D.	MEAN	S.D.	
FACT-I	4.43	1.31	4.61	1.37	-3.00*
FACT-II	4.35	1.15	4.54	1.21	-3.26**
FACT-III	3.97	1.24	4.16	1.32	-3.13**
FACT-IV	4.25	1.34	4.17	1.35	1.38
FACT-V	4.55	1.45	4.60	1.49	-0.55
FACT-VI	3.73	1.31	3.70	1.44	0.25

\*P<0.05 \*\*P<0.01 \*\*\*P<0.001

### 2-4. 男女差による因子ごとの変化の相違

男子群の自己概念の変化に有意な差がみられた因子は、第I因子、第II因子、の2因子であった。第I因子は一般的に好ましい方向への変化がみられたが、反して第IV因子では好ましくないと考えられる方向への変化が認められた。Group-Bの集団特性として、集団に占める男女構成比が約1:2の割合で圧倒的に女性が多いという特性がある。このため男子が思うように集団にとけ込めず、精神的萎縮が積極的な活動を抑制する影響をもたらしたものと推察される。

女子群では、第II因子、第III因子の2因子に有意な差がみられた。いずれの因子も一般的に好ましいと考えられる方向に変化がみら

表-11 因子別検定結果 (Group-B 男子)

	Pre ①		Post ②		①-②
	MEAN	S.D.	MEAN	S.D.	
FACT-I	4.09	1.24	4.36	1.38	-2.33*
FACT-II	4.34	1.11	4.45	1.17	-1.29
FACT-III	3.70	1.25	3.91	1.40	-1.86
FACT-IV	4.29	1.29	4.08	1.43	2.03*
FACT-V	4.42	1.53	4.56	1.53	-0.95
FACT-VI	3.74	1.21	3.7	1.47	0.28

\*P<0.05 \*\*P<0.01 \*\*\*P<0.001

れた。種々の活動を克服した満足感、自然環境に対する新たな認識の発生等にともない、内面的感情面が豊かになっていることが認められる。

表-12 因子別検定結果 (Group-B 女子)

	Pre ①		Post ②		①-②
	MEAN	S.D.	MEAN	S.D.	
FACT-I	4.62	1.32	4.75	1.34	-1.94
FACT-II	4.35	1.18	4.59	1.23	-3.07**
FACT-III	4.12	1.21	4.30	1.25	-2.51*
FACT-IV	4.23	1.37	4.23	1.31	0.09
FACT-V	4.63	1.40	4.62	1.47	0.08
FACT-VI	3.72	1.37	3.71	1.43	0.08

\*P<0.05 \*\*P<0.01 \*\*\*P<0.001

両者を比較すると、男子群では外向的面においてわずかながら好ましい影響がうかがえるが全体的に大きな変化はみられず、反して好ましくない影響を受けている面もうかがえた。女子群では、活動等に積極的に取り組ん

だ結果と思われる傾向がみられ、物事に対する感情が豊かになり、自己能力の再認識が強くなされたと認められた。

### 3. Group-AとGroup-Bとの比較

#### 3-1. 項目ごとの比較

Group-Aの自己概念の変化に有意な差がみられた項目は6項目であった。対してGroup-Bでは7項目に有意な差がみられた。

Group-Aで有意な差がみられた項目は、すべてが一般的に好ましいと考えられる方向への変化がみられた。しかしながら、Group-Bでは7項目中3項目が一般的に好ましくないと考えられる方向への変化を示した。このことはGroup-AとGroup-Bの集団を構成する男女構成比の差、およびその要因に加えプログラム内容の差がこのような結果を生じさせたものと考えられる。Group-Bでは女子の割合が全体約3分の2を占め、プログラムに対する不安度がGroup-Aに比して高い傾向にあったと推察される。

#### 3-2. 男女差による項目ごとの比較

Group-Aにおいて男子群4項目、女子群2項目、Group-Bでは男子群3項目、女子群4項目に有意な差がみられた。

両グループの男子群において「感情的な—理性的な」の項目でいずれも有意な差がみられたが、その変化の方向に異なりをみせた。Group-Bにおいて、「感情的な」方向へ変化したものは行動面における感性ではなく、自らの物事に対する感性の変化としてとらえられると考えられる。すなわち、Group-Aではあらゆる事物、場面において冷静に判断する能力を養われたのに対し、Group-Bでは解放的自然環境の中において、あらゆるものをおまに受け入れる感性が養われたといえる。

Group-Aの7)怠惰な→勤勉な、25)無能な→有能な、Group-Bの19)素直な→強情な、20)臆病な→勇敢な、等の変化からは、悪天候の中のビバーク、山中でのビバーク、縦走登山、野外炊飯など、厳しい条件の中でそれを克服したことにより、両グループの男子群とも自らの能力の可能性を再認識し、活動に対する取り組み方も意欲的な方向に促されたものと考えられる。

Group-Aの女子群で有意な差が得られた2項目は、両方とも一般的に好ましいと考えられる方向に変化している。対してGroup-Bの女子群では有意な差が得られた4項目のうち、32)おだやかな→険しい、37)清潔な→不潔なの2項目は一般的に好ましくないと考えられる方向に変化をみせた。

#### 3-3. 因子ごとの比較

Group-Aでは、第Ⅱ因子、第Ⅲ因子、第Ⅳ因子の3因子、Group-Bでは第Ⅰ因子、第Ⅱ因子、第Ⅲ因子の3因子それぞれに有意な差が得られた。Group-Aでは第Ⅳ因子に特に大きな変化がみられ、積極性や協調性に良い影響を与えていることが考えられるが、Group-Bにおいては、グループとの一体感、協調性には余り影響は与えられず、どちらかという個々の感情や自信などに影響が与えられたものと考えられる。

#### 3-4. 男女差による因子ごとの変化の相違

Group-Aの男子群の自己概念の変化に有意な差が得られた因子は第Ⅰ因子、第Ⅱ因子、第Ⅲ因子、第Ⅳ因子の4因子で、Group-Bの男子群では第Ⅰ因子、第Ⅳ因子の2因子に有意な差が得られた。Group-Aの男子群は活動全般において積極的に活発に活動し、強靱性

協調性等の多様な感性を養ったと考えられる。対して、Group-B の男子群には活動に取り組む積極性はあまりみられず、逆に社会性や道徳性に好ましくない影響が与えられたと考えられる。

女子群においては、Group-A の自己概念の変化に有意な差を生じた因子はみられなかった。Group-B の女子群では第二因子、第三因子の2因子に有意な差が得られた。

### ま と め

教育キャンプにおける自己概念の変化を知るために自己概念調査スケールを、集団構成及びプログラム特性の異なる2集団を対象に実施し、両特性から検討を加えた。

キャンプ経験がキャンパーの自己概念に好ましい影響を与えることは、数多くの先行研究で報告されている。しかしながら今回の調査では、好ましくないと考えられる影響も与えられることが認められた。このような結果が得られた要因の中で、最も影響を及ぼしたと考えられるものは、集団の男女構成比にあると考えられる。教育年限の高いほど個人のもつ性役割感強く、性差による役割の2分化に固執する傾向があるといわれている。男女構成比が1:1であったGroup-A では顕著にその傾向がみられた。すなわち、男子がリーダーシップを発揮する立場におかれ、女子は援助的役割を果たすといった傾向である。対してGroup-B では、集団内においても日常生活と異なる環境が形成されたことに対し、男女双方に困惑が生じ、その結果うまく集団環境に適応できず、好ましくない結果を引き起こしたのと考えられる。

この結果が全ての教育キャンプ活動に共通

するものであるか否かは、調査対象者の個性等、他の要因の影響も考えられ、一概に判断できるものではない。しかしながら、異性集団において活動が行われる場合、男女構成比の問題は無視することのできない要因の一つであるといえる。

集団宿泊活動の一環として教育キャンプ活動の機会が今後増加する傾向が考えられる。異性集団活動における今回の問題を明らかにするため、同一プログラムによる活動を通し、年齢構成、個々のパーソナリティ等の要因も加えた上で、再度検討する必要があると考える。

### 参考文献

- 1) 服部百合子：性差-相互存在としての男と女-，ユック舎，1982.
- 2) 東 清和 他：性役割の心理，大日本図書，1984 .
- 3) 東 清和 他：性差の発達心理，大日本図書，1989.
- 4) 東 清和：性差の社会心理，大日本図書，1990.
- 5) 星野敏男：組織キャンプにおける女子学生の自己概念の変化について，明治大学教養論集，155号，pp59-76，1982.
- 6) 川村協平 他：組織キャンプにおける自己概念の変化に関する研究，東京学芸大学紀要，31巻，pp209-218，1979.
- 7) 間宮 武：性差心理学，金子書房，1979.
- 8) 南 貞己：大学一般体育シーズンコースの自我概念の変化に及ぼす影響，東京教育大学体育学部紀要，pp143-148，1971.
- 9) 長島貞夫 他：自我と適応の関係についての研究（I），東京教育大学教育学部

- 紀要, 12巻, pp85-106, 1965.
- 10) 長島貞夫 他: 自我と適応の関係についての研究(Ⅱ), 東京教育大学教育学部紀要, 13巻, pp59-83, 1967.
- 11) 中込四朗 他: スキー実習の体験過程と自己概念の変化に関する研究, 北海道教育大学紀要, 29巻, 2号, pp11-18, 1979.
- 12) 野沢 巖: スキー実習の自我概念の変化に及ぼす影響, 野外運動研究, 1巻, 1号, pp30-41, 1975.